

大都市と主な地方都市を開催地を選んだ。その結果、わざわざ開催地以外の地域からも、出席している参加者が数多くあった。(東京に長野、神奈川、愛媛から、福岡に山口、熊本から、宮城に岩手から、大阪に兵庫、京都、静岡から 等)

※委任相談の実施

プライバシー面の心配から、患者・家族が直接に講演会や相談会に出向くことが困難である場合も多く、当事者からの要望によって間接的に情報提供をしたケースが280件あった。この場合、地域の病院の HIV 担当医師・看護師・栄養士・歯科医師・歯科衛生士、NGO・患者会関係者に支援のノウハウを伝え、教材を提供し、個別相談の対応を委任する形式をとった。

(6) 参加者からのアンケート結果

保健所・行政関係者の立場から

- ・ 短時間の中に、わかりやすく口腔衛生と栄養について話していただきありがとうございました。暖かい雰囲気と、参加された方の意見もあたたかく輪が広がっていくことを実感できるものでした。
- ・ 感染者の方にとって栄養支援がとても大切だということが判りました。私は勉強不足で感染者の方が栄養不良となりやすいことと栄養必要量が増加することを知らず、とてもいい勉強になりました。また、歯科診療場面での感染予防の考え方は「なるほど!」とても納得できました。これからも頑張ってください。こういう機会に参加できて良かったです。
- ・ 栄養指導がそんなに望まれているとは思いませんでした。嬉しい事です。また、食事や栄養の実際例等の発表機会などありましたら是非参加させて頂きたいです。口腔についてのパンフレットが完成されたら教えて欲しいです。
- ・ 前々から慢性感染症で区別する病気ではないと思っていたが、今回の話で基本的な栄養、口腔ケアの大切さを再認識した。ハンドブックの完成(口腔も含め)と普及が楽しみです。歯科医療の現場で告知する必要なしの話聞き納得しました。自分達がまず感染予防をきちんとすることで患者さんが救われますね。またいろいろな情報を流してください。
- ・ 行政とNGOの関わりを築くことこそ国民のQOLを高めるのに不可欠との思いを新たにしました。本当に受講させて頂けてよかったと思います
- ・ 初めて栄養と口腔管理についてのHIVから見た視点での講話を聞いた。とても有意義な講話でした。いろいろなHIVに関する情報を折り込みながらの講話であつという間に時間が終わったという感じです。また、医療関係者の方達との勉強会を是非次の機会にもしたいとおもいます。連携を図る上で大事だと思いました。「栄養と滋養」のリーフレットがとてもかわいいです。
- ・ 確かにHIVを身近に話している人、NGOの方が感染者のニーズを捉えていると思う。その情報を行政に反映していくかが課題である。そのルート、方法を確立していく必要がある。又、財政状況が厳しい中、予算的配慮を含めたNGOの活用、NGOとの役割分担や財政的裏付けも含めて作っていくことは中々困難な状況がある。
- ・ 栄養士的立場として色々と活動していることを初めて知ることができました。歯科に関しては行政での消毒の考え方を知ることができました。

- ・このような会を催していただきありがとうございました。一時、エイズの勉強会が多く、よく受講しておりましたが、ある意味全体的に落ち着いているように思われます。H I V陽性の方に対しても一般の方と変わらぬ対応が良いのではと思うようになっております。
- ・保健所でH I V陽性の人に告知をする時の心構えとして、栄養などについてはある程度気をつけていましたが、口腔保健管理についてもその必要性がよく分かりました。
- ・途中から参加しましたが、NGOの活動について今後注目したい。
- ・NGOである「H I Vと人権・情報センター」の活動を初めて知りました。今回のファクスで職場への案内を頂きありがとうございました。活動内容、調査内容等、今後も情報として教えて下さい。
- ・市ではH I V感染者に特別なセンターで、年に何回か決めて診療をしている（費用はかなりかかっている）が、決して適切でないことを理解し今後の対応の参考になりました。差別的な診療から、すべての患者に同等にできる診療こそが全ての感染予防につながるということがわかり、とても参考になりました。栄養についても大変よく理解できました。
- ・「健康は健口から」の冊子が早くできることを期待します。本日のお話をもっと多くの栄養や歯科の医療関係者に聞いていただけたらと思いました。
- ・世界レベルのお話が伺えてよかった。歯科は栄養を取るのにも基本、エイズ発症を防ぐため口腔カンジダ予防にとって重要だとわかりました。
- ・H I V情報（特に栄養や歯科）は全く持っていない状況です。まだまだ連携までは、難しいという印象です。栄養のアプローチについても参考になりました。栄養支援の具体的な内容が良くわかりました。
- ・今度は市民公開講座として大きく講演されるといいなと思いました。
- ・H I Vの歯科診療は普通の診療と変わらないことが分かった。歯科医師のネットワーク作りも大切なのだと感じた。
- ・H I Vの患者さんとまだ接する機会はないのですが、市民サービスとして患者さんが来所された時の対応や、関わり方勉強になりました。特別な疾患でなくイギリスのように1つの慢性疾患としてとらえられるように今後も勉強していきたいです。

医療関係者の立場から

- ・「食生活」「口腔衛生」の基本的な考え方、具体的な対策について先進的な文献も使って分かりやすく学ぶことができてよかった。また、NPOの活動がしっかり（専門的知識）したもので行政と連携して患者さんのために頑張っていることが分かりました。やはり患者のニーズにもとづいた研究の成果を地域の専門職の人たちに返していくことは必要だと思いました。
- ・歯科医師への卒後教育の充実を求めたい。あるいはしなければいけないと思いました。
- ・栄養のパフレット（手帳）とてもかわいくできていると思います。歯科医院については、すべての医院でH I Vに限らず感染症の患者さんを受け入れてもらえるのは理想ですが、現実のところかなり難しいと思います。一般の歯科医院のなかには今でも感染症（HBV等）の患者を「うちでは治療できません」といって病院に紹介しているところも多いので。でも早くすべての歯科医院で受け入れてもらえるようになれば良いと思います。時間がかかるかもしれませんが医療従事者や行政が地道にがんばっていかなければならないと思いました。

- ・ 開業医勤務ですが、感染症対策の話をしているとき‘HIV感染者が来院したらどうする?’と聞かれ、他のスタッフは「対応したくない」と答えていました。もっと広く認識を持てるよう（自分たちの勉強不足もあるのですが）厚生労働省でも対策を考えてもらいたいと思う。
- ・ 「栄養と滋養」の冊子は持っていて可愛いものに仕上がっているし、内容もわかりやすい物であり、ぜひ患者説明に今後使いたいと思っています。口腔ケアについては、研修のとき衛生士が入り説明していたのを体験し、口腔ケアの歯科検診（口腔管理）の活用など、HIV感染者・AIDS患者にとってある意味達成できていた。その後何度か報告会で取り上げていたので思い出しながら参考にしていきたい。
- ・ 栄養については感染者のみならず生きていくことでも大事なことだと思います。ありがとうございました。
- ・ 栄養面でのアドバイスもできればと思います。歯科受診はしたいがどこに受診したらよいかわからず、う歯など長期に放置している方が大勢見えます。また、当院の歯科に紹介しても継続通院できないため開業医にかかりたいが迷っている人も多いです。早く気兼ねなく歯科受診できると良いですね。
- ・ 歯科医療に関しての情報（考え方）が得られて新鮮だった。
- ・ ユニバーサル・プリコーションは大事だが、開業医と病院では（あつてはいけないと思うが）衛生管理面、消毒面で異なるのではないか。HIV感染者の心理から開業医では心配との懸念がないだろうか。
- ・ HIVに関わらず全ての疾患で栄養指導は非常に重要だと思うのですが、現実的には病院内での栄養士の先生の人数が限られていて利用しにくい問題があると思います。将来的な流れとしてはどのような形で栄養士の先生が関わって頂けるのでしょうか？やはりNGOのお願いしなければならないのでしょうか。
- ・ がん病棟から最近結核病棟に異動し看護師をしています。HIVに限らず免疫力を上げる食生活に興味を持ち、参加させていただきました。患者さんが病気になり治療している間、自分自身で今までの生活を改善していく時、今までの食生活について振り返ることはとても大きな割合を占めると感じています。免疫力を上げる食生活、本当に生活の知恵の情報として、また、必要な情報の一つだと再実感しました。
- ・ よく、学術発表では他職種が同時に発表されることは目にしますが・・・。管理栄養士さんもこんなに頑張っている姿に負けられないなと思いました。
- ・ ご準備ご苦労様でした。関心・知識がなかったので参考になりました。
- ・ HIVについての知識が自分の中でまだまだ不足と感じました。
- ・ 興味深く聞きました。とても大切なことです。
- ・ 患者さんが特定の歯科に限定されず近くて感じの良い歯医者さんに受診できるよう歯科医師の意識が変わって欲しい。栄養についてはとても新鮮な情報で毎日のことですから勉強が必要ですね。
- ・ 最近関心を持ち始めたばかりなので、学べることは全て参加しようと思ってきました。食事に関してはとてもわかりやすくまた、普段の生活、仕事にすぐに役に立つことが多くてとてもためになりました。
- ・ PHAについての歯科受診については初めて話を聞きました。勉強になりました。

- ・ 口腔と食のこと、両面からうかがうことができ、大変勉強になりました。
- ・ 栄養の問題は大変必要だと感じています。
- ・ 大変ためになりました。歯科治療については認識が変わりました。職場で担当している患者が腸炎のため下痢がひどく高カロリー輸液を行い絶食していますが、食に関しての要求が強くかなりのストレス状態のため何とかできないかと思い参加しました。
- ・ 今日まで聞いたことがない話だったので知識が増しました。
- ・ 栄養支援と同様に口腔ケアの在宅支援体制を整えたいとお話してましたが、それは具体的に活動は始まっているのでしょうか？その場合の金銭的支援はどう確保しているのでしょうか。私は現在歯科衛生士として勤務しておりますが、本日のお話を拝聴しその活動に興味関心を持ちました。
- ・ 具体的な支援の話が聞けてよかった。参考にさせていただきます。
- ・ 栄養摂取の上からも定期的な口腔管理が必要であり、H I Vに限らず重要だと思います。H I Vポジティブの患者が告知せずに歯科治療を受けられるためにもユニバーサルプリコーションを実施するには保険点数を改正していただきたいと思います。

一般市民・NGO・教育・その他（特に記載なしを含む）

- ・ 歯科や栄養についてはあまり聴く事はありませんでしたので参考になりました。
- ・ 今回、初めて参加しました。栄養と歯科への対策をお聞きできてとても参考になりました。NGOの活動についても知るいい機会になりました。行政との連携の必要性も知ることが出来ました。
- ・ H I V感染者が歯医者でポジティブであるということを伝えなくてもいいとは知らなかったです。つまり、器具の衛生面では問題がないということを知ることができました。
- ・ 「H I V感染者だけを特別視、危険視するのではなく、食生活・口腔衛生管理はすべての人に必要である」というのが印象に残っています。良い学びの機会になりました。
- ・ 高度な内容のお話で理解するのが少し難しかったのですが、普通では聞くことができないお話ばかりだったと思います。細かいとはいえ必要な情報ばかりでした。(栄養、歯科医療ともに)「歯科医療にたいする不安要因」を取り除く取り組みが一般的に遅れているという実感がありますので、その方面への働きかけをしていただきたいと思います。
- ・ HIVについて人権、差別についてもっと国民に学習する場をつくってほしい。
- ・ 口腔衛生ではA I D S発症も遅らすことができることは、歯科診療の定期的なケアの必要性を強く感じた。栄養支援では体重減少や下痢により食べ物が具体的に分かったこと、体重の維持には1.5倍のエネルギーをとる献立が必要なことがわかった
- ・ 栄養の基本を知らなかったのでいきっかけになりました。H I Vに限らず栄養の指導のあり方は同じですね。
- ・ HIVについて知らない事がいっぱいありました。歯科分野についても、知識が行動を変えていくのかなあと今日は考えさせられました。又、何かできることがあるか考えてみようと思います。個々にあわせた支援が素敵です。
- ・ PWH/Aの方々と会って、食生活については興味のあったところです。大変分かりやすい説明でよかったです。治療が進む中で免疫を下げない食事は大切です。資料もとてもよく出来

ていますね。参考にしていきたいです。

- ・ FM802のホームページ「エデュケーション・リーダー・キャンペーン（EDL）」のBBSで今日のことを知りました。このような会がもっと一般に広がって開かれるとよいと思います。

（7）協力機関

開催にあたって、拠点病院（2機関）、教育機関（1機関）、NGO（13団体）からの協力を得て実施した。

7. 発表会開催による成果

- （1）各地域の患者会・NGO・諸機関と連携して開催したことにより、様々な職種、立場からの参加があった。また、現在の日本では、HIV感染症と口腔衛生、栄養についての情報が少ないため、すべての地域において、参加者は非常に積極的であり質疑も多くあった。
- （2）参加者の中には実際に感染者と接した経験がある者も多く、具体的な事例や困難・問題についての質問が多く出された。各会場では、現場の課題や問題点が共有され、研究成果発表会を通じて研究そのものが深まるきっかけとなった。
- （3）発表演者からは、医療・保健所の現場からは見えてこない HIV 感染者の現状や、NGO による直接救援の実態、意義が明らかにされた。日本の HIV 感染者支援のあり方について参加者と情報交換や活発な討議が行われた。
- （4）研究発表の内容は、参加者がすぐに現場で利用できるような指針や具体的な教材を利用した支援の方法であったため、研究の成果が直接現場に還元される機会となった。
- （5）研究成果発表会の広報を通じて、全国各地から様々な反響があった。発表会開催地（7ヶ所）以外の地域から、同様のテーマで別途講演を依頼され実施したケースが2件あり、「今後、講演・研修を依頼したい」「現場で感染者にたいして直接支援をしてほしい」「支援活動に是非参加したい」という希望も多くあった（17件）。
- （6）栄養と歯科をテーマにしたこの発表会においても、各地の会場で行政機関、医療機関、教育機関、NGO が互いに顔を合わせることによって、連携の第一歩が始まり、今後の AIDS 対策の現場に活かされていくことが期待される。
- （7）研究自体が当事者の視点に立ったものであり、当事者の協力を得て歯科と栄養のニーズ調査を行った。そのため、予想以上に感染者・家族から反響があり、療養生活に活かせる情報が当事者にフィードバックされた。また、発表会に参加した行政関係者・医療従事者は、当事者からの生活に則した支援の必要性や、生の声、率直な意見を聞くことができ、貴重な学びがあったといえる。



Nutritional Support Manual

栄養支援 マニュアル



特定非営利活動法人
HIVと人権・情報センター

栄養支援の目的

- PWA/Hに、HIV感染によって直面する栄養的な問題の全体像を伝える。
- 栄養や食事に関する支援について話し合う。
- 一般によくありがちな栄養問題との付き合い方について話し合う。
- 在宅訪問、調理実習、会食による栄養支援を行う。
- カウンセリングや福祉支援とともに栄養支援を行う。

HIV感染者が直面する 栄養問題は どう変わったか

【HAART療法以前】

- 体重減少の急激な進行

- 全般的な栄養不良

- 病勢の予測困難

【HAART療法以後】

- 体重変化の個人差

- HAART療法による脂肪の偏在

- 高脂血症

- 高血糖

- 予測が可能となりつつある

HIVと人権・情報センター が提供できる 栄養支援サービス

- (1) 管理栄養士（常勤）の派遣
ボランティア栄養士又はボランティアスタッフの派遣
- (2) ひとりひとりのPWA/Hにたいして栄養支援を行う
- (3) 栄養に関する問い合わせにたいするサービス
 - ・電話（ ）
 - ・面談（ ）
 - ・在宅訪問（ ）
 - ・リビングセンターを利用（ ）
- (4) 無料サービス
- (5) 母子のPWA/Hや発症者への栄養支援における医療との連携
- (6) 生活の場の衛生管理支援
- (7) 調理実習を伴う栄養支援
- (8) 家族へのカウンセリングを伴う家族栄養支援

なぜ栄養支援が必要か

- (1) 栄養と免疫は強く関連している

- (2) HIV感染による栄養への影響が明らかである

- (3) 栄養問題を解決するためには栄養管理が重要である
 - ・体重の減少()
 - ・高脂血症()
 - ・高血糖()
 - ・栄養バランスの変化()
 - ・ARC、発症時にみられる全般的な栄養不良()

- (4) 口腔内、消化管病変による摂食困難が ocorrênciaやすい

- (5) 効率よいエネルギーの摂取方法が重要である

- (6) 服薬と栄養は関連している

誰もがもっている
自己治癒力

- (1) 機能的な防衛構造
皮膚・粘膜の免疫力

エネルギー、タンパク質、ビタミンA、ビタミンE、葉酸

- (2) 細胞システムによる免疫力
ナチュラルキラー細胞等

ビタミンC、ビタミンB12、鉄、エネルギー、タンパク質

生まれてから獲得する 免疫力

(1) 液性免疫

Bリンパ球（抗体・メモリー細胞）

エネルギー、タンパク質、ビタミンB6、葉酸、セレン、亜鉛、マグネシウム

(2) 細胞性免疫

Tリンパ球、ヘルパー（T4/CD4）、サイトトジック、サプレッサー

エネルギー、タンパク質、ビタミンB6・B2、
ビタミンA・E・B12、葉酸、亜鉛、鉄、セレン

高ビタミン・高ミネラル

ビタミンやミネラルは炭水化物やたんぱく質・脂肪が体内で消化されるとき潤滑油のような役割をします。また、ほとんどのビタミンとミネラルが免疫機能と関係しているか、各症状の予防・改善に効くため、同じ物ばかり食べずにいろいろと食べることが重要。

ビタミンA (β-カロチン)	免疫機能の維持。皮膚・粘膜・目を正常に働かせる。
ビタミンB群	B2は口内炎予防と回復。B1は疲労回復、糖質・たんぱく質・脂肪の代謝関与。
ビタミンC	血管・皮膚・粘膜・骨を強くする。抗ウィルス作用。ストレスや疲労の回復。
ビタミンD	歯・骨を丈夫に保つ。筋肉維持。
ビタミンE	血管を丈夫にする。生殖機能維持。老化を遅らせる。体内での抗酸化作用。
鉄	体内で酸素運搬。病気に対する抵抗力をつける。
亜鉛	免疫機能維持。味覚・嗅覚の維持。他の栄養素と関連して働く。
マグネシウム	骨の形成。精神安定。血を固まりにくくする。体温・血圧の調整。
カルシウム	精神安定。骨や歯の形成。出血を防ぐ。

野菜、きのこ類、海藻類、果物類はビタミン・ミネラルの宝庫！！

栄養支援に入るポイント

(1) PWA/Hの栄養支援を受けたいという意思があるかどうか

(2) 栄養摂取の偏りや食事・栄養に関する誤解がある場合

(3) 栄養状態

・身長()

・体重()

・BMI()

・上腕()

・体重史()

・生活習慣病のリスクファクター
()

・皮膚の状態
()

・口腔内・消化管状態
()

・下痢・発汗などの身体症状
()

栄養についての アドバイス 1

- 達成目標をつくる／バランスのよい栄養摂取／栄養不良の予防
- 栄養処方箋／1日に1つ補足するとすれば…
- 栄養維持の目標／理想的な体重への到達
- 補助食の有害性のチェック
- 個々人の栄養環境へのアドバイス／調理設備／調理技術／収入／食事の好み／文化・家族・生活背景
- 食事の概念

HAART療法をする中での体重減少

●不摂生な生活

●CD4、ウィルス量の悪化

●告知の受容ができていない

●HAART療法のアドヒアランスの失敗

●結核／肺疾患

●HAART療法による副作用としての代謝異常

●リンパ腫

●治療の失敗

栄養についての アドバイス 2

- 体重減少／大量エネルギーの消失
- 入院中の栄養支援
- 必要栄養量の増加
- 退院後の訪問栄養支援
- 食事の頻度と量
- 食品の選び方
- 補助栄養食品
- 経管栄養の支援

栄養についての アドバイス 3

【高脂血症をもつPWA/Hへのアドバイス】

- 良質な脂肪の摂取についてのアドバイス

- 果物、野菜、食物繊維、魚を多くとる

- ミネラルを多くとる

- 活性酸素を抑える食品を多くとる

- ライフスタイル全体を見直す
禁煙／適度な運動／コレステロールとカロリーの消費について考える

【高血糖をもつPWA/Hへのアドバイス】

- 糖とアルコールをとりすぎないようにする

栄養についての アドバイス 4

【脂質代謝異常】

- バランスのよい食事
- 医師と連携をとりながら運動
- 適切な体重の維持
- 定期的な身体測定を行う

